



木津川市 親元就農 ブドウ栽培
岡田 趙諒さん 2020 年 3 月卒業

就農への夢を実現するため農業の基礎を習得

幼い頃から祖父が作ったブドウを食べて育ち、親しんできたブドウが食べられなくなるのは寂しいという思いもあり、将来は自分が農業を継ぐのだらうと、漠然と思っていました。ただ、すぐに農業を始めるのではなく、まずは社会に出て経験を積むことにし、大学卒業後は民間企業に就職しました。スーパーの青果部門で接客・販売に携わり、お客様の好みに合った商品を提案する楽しさを知りました。

その後、就農を考えたとき、農業の知識がほとんどなかったため、地域の農家の方に相談したところ、「農業大学校なら栽培技術だけでなく経営まで学べる」と教えてもらい、入学を決めました。それまで農業を専門的に学んだ経験がなかったので、基礎から学べることに魅力を感じました。入学前はオープンキャンパスにも参加し、大きな不安はありませんでした。

技術・資格・人脈を築き将来への力を養う

農業大学校では、作物の生理現象や栽培管理、経営などを一通り学ぶことができました。果樹を専門的に学ぶコースはありませんでしたが、将来ブドウを栽培することを先生に伝え、果樹に関する資料や基礎知識を教えてもらうことができました。

また、将来の農業経営に役立つことはできるだけ身につけておきたいと考え、資格取得にも積極的に挑戦しました。農業大学校には農業に役立つ資格を取得する機会があり、大型特殊自動車運転免許を取得し、農業簿記検定にも合格しました。このほか、機械の操作やフォークリフト等運搬に関する講習等受講し、将来に備えました。

農大マルシェでは、自分たちが育てた農産物をお客様に直接販売できたことが印象に残っています。学校生活を共にした同級生や先輩とは、卒業後も交流が続いており、そうした人とのつながりも、農業大学校で得た大切な財産です。

農家実習と相談しやすい環境が挑戦を後押し

1年生の農家派遣実習では、木津川市内の農園で約2週間、実際の農作業を経験し、現場の農家の方から直接教わることができました。

資格取得については職員の方に相談し、必要な情報や助言をもらいながら、計画的に取り組むことができました。就農に向けた支援情報についても親身になって教えてもらいました。分からないことや挑戦したいことがあれば、自分から相談し、行動することで、先生や職員の方がそれに応えてくれる環境だったことが良かったです。

地域に根差したブドウ経営へ

農業大学校を卒業した後は、祖父からブドウ栽培を教わる予定でしたが、祖父が病気で倒れ、直接教わることが難しくなりました。そのため、就農後は親戚から栽培技術を教わりながら、ブドウ栽培に取り組みました。

就農１年目には、長雨の影響でデラウェアの実が割れたり腐敗したりして、ほとんど収穫できないという失敗も経験しました。この経験を踏まえ、デラウェアだけに頼らず、裂果しにくい品種への切替えを進めてきました。

現在は、祖父から引き継いだ畑を基盤に栽培面積を広げ、これまでの失敗や試行錯誤から得た経験を、栽培に活かしています。

お客様との信頼を大切に。品質向上を追求

自分が食べて「美味しい」と思えるブドウを作り、お客様に喜んでもらえることが一番のやりがいであり、農業を続ける励みになっています。

会社員時代にスーパーの青果部門で働いた経験を活かし、お客様の好みを聞きながら、その方に合うブドウを提案しています。その年の出来や品質についても正直に説明し、一人ひとりのお客様に誠実に向き合うことを大切にしています。おかげさまで、お客様からの紹介を通じて、新たなお客様とのつながりも広がっています。また、農業は地域との関わりの中で成り立つ仕事なので、地域の方々との信頼関係も大切にしています。

栽培面では、味と品質を重視し、有機質肥料を中心に、ブドウの生育に応じて肥料を使い分けています。また、できるだけ新鮮な状態でお客様に届けるため、その日に販売する分を収穫しています。

今後は栽培技術をさらに高め、高品質なブドウを安定して生産し、お客様に届けていきたいです。

農業の学びと仲間が新たな道を切り拓く

農業大学校では、栽培技術や経営について基礎から学ぶことができます。また、年齢や考え方の異なる仲間と関わる中で、自主性や協調性、人との関わり方も身につけることができます。

農業には、黙々と作物を育てて市場へ出荷する働き方もあれば、自分のように、お客様と直接話しながら販売する働き方もあります。人と話すことが好きな人にも、一人で作業することが好きな人にも、それぞれの性格や得意なことを生かせる農業の形があると思います。

将来の目標がまだはっきり決まっていなくても、農大での学びや仲間との出会いが、自分に合った道や新たな可能性を見つけるきっかけになるかもしれません。自分自身を成長させ、次の一步を踏み出すための選択肢の一つとして、農業大学校を考えてみてほしいです。